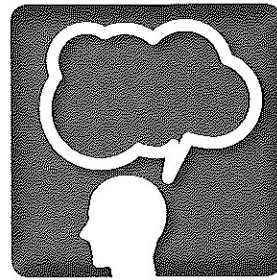


経営(継承)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方⁷³

しんすいのろう
薪水之勞

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人材創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com

ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

人のために苦勞して働くこと
骨身を惜しまずに人に尽くすこと

東日本大震災の被災地支援に足を運んだ方から「薪水之勞を実感しました」と、声をかけられた。

薪を集めたり水を汲んだりする家事労働、日常の雑事のこと。転じて、人のために苦勞して働くこと、また骨身を惜しまずに人に尽くすことを「薪水之勞」という。

6世紀前半の中国・南北朝時代、南朝・梁の蕭統(昭明太子)によって編纂された詩文集『文選』には、「今、この力を遣わし、汝が薪水之勞を助けしむ、此も亦人の子なり、善く之を遇すべし」とある。

詩人の陶淵明が県令として単身赴任をすることになり、故郷に残した息子に一人の力(下働きの者)を送った際、この書簡を添えて勞つたという。

「おまえが一人で朝夕の食事の支度をするのは大変だろう。ここに下働きの者を遣わして、おまえの薪水之勞を助けさせよう。しかし、彼も人の子であるから、いたわってやらなければならぬ」というのが意である。

薪を集めなくとも、水を汲まな

くとも、暮らしには何らの支障も来さないライフライン(いわゆる都市生活に不可避な水道や電気ガスなどの供給システム)が整備された今の生活を当たり前のことのように経験している人にとって、薪を集めたり、水を汲んだりするということ家事労働への理解が及びもつかないことである。

だが、東日本大震災によって当たり前のように感じていた生活が一変。人のために苦勞して働くこと、また骨身を惜しまずに人に尽くすことを厭うようでは支援活動など覚束ないことはわかっていたのだが、被災された方々から労いや感謝の言葉をいただけたことが励みになったというのである。

「被災者が一人で朝夕の食事の支度をするのは大変だろう。ここにボランティアを遣わして、被災者の薪水之勞を助けさせよう。しかし、ボランティアも人の子であるから、いたわってやらなければならぬ」ということか。

思いどおりにしたいという心が
不満の大きな原因である

要介護認定を受けた利用者の心境は、大震災で被災しなくとも、

似たようなところがある。

「利用者が一人で朝夕の食事の支度をするのは大変だろう。ここに介護職員を遣わして、利用者の薪水之勞を助けさせよう。しかし、介護職員も人の子であるから、いたわってやらなければならぬ」ということになるのであろうか。

ある介護事業所の更衣室に掲示された言葉を紹介したい。
思いどおりにしたいという心が、不満の大きな原因である。

不平や不満にとらわれていると、進歩も向上も止まってしまふ。
責任を他に求めているうちは、解決の糸口さえ見つからない。

結果は思わしくなくても、尽くした努力は力となって残っていく。
自分の評価は他人が決める、我慢してみても値打ちは上がらぬ。

相手が悪いと思いつめている間は、対立と争いがいつまでも続く。
お粗末だったこと、一生懸命でなかったこと、その原因は自らの姿勢によるところが少なくない。

介護職の仕事上の悩みの大半は、人間関係に尽きるといってよい。
説教じみた文言の羅列だが、事業所全体が真面目な人をめざしている姿に感動させられた。